

新規利用登録団体紹介

平成28年度協働提案事業が採択されました

■リフリースタイル

「自由に、しなやかに、“らしく”生きる」をモットーに、個性を認め合い、自分らしくのびやかに暮らすことのできる社会、自分を素材として活かし何度でもチャレンジ可能な社会の実現をめざしています。月島・勝どき周辺で、ドキュメンタリー映画の上映会や統計心理学を使ったコミュニケーション・ワークショップ、読書会等を定期開催しています。
<https://www.facebook.com/refreestyle/>

■企業活性支援研究会

企業が信頼を獲得しより一層活躍できる社会の実現をめざし、法令や契約規範を遵守し活動する企業の事業活性化を支援する団体です。中央区周辺の事業所を対象に、法務・税務に関するサポート3ヶ月に1回程度勉強会を開催しています。また、無料法律相談等も開催しています。

■リトルワンズ

地域社会の子育て、企業連携、多世代交流を通じて、ひとり親の経済的自立やその家庭の生活向上を支援し、日本の子どもの貧困問題の解決をめざす団体です。気軽に集えるカフェの運営、ひとり親同士の交流会、生活向上セミナー、就職・住宅支援も実施。ひとり親に役立つ情報交換サイトなども運営しています。
<http://www.npolittleones.com/>

平成28年度に実施する協働提案事業が決定しました。「ペットの適正飼養及びマナー普及のための語り場運営事業(仮称:中央区どうぶつ語り場カフェ)」です。提案団体である「動物と暮らしやすいまちづくり会」と担当部局である福祉保健部生活衛生課との協働事業です。

中央区では犬の飼育をする人が毎年約400頭ずつ増えており、ノーリードや糞尿の問題など、地域で動物と暮らす際の課題も増えてきています。また、最近では、災害時の同行避難なども見逃すことのできない課題となっています。

このようなさまざまな課題を解決するため、カフェの開催を通じて、ペットの対応や、マナーのあり方などを語り合い、互いに理解を深める機会をつくっていく予定です。



動物やマナーについての知識を日頃から知っておけば、いざという時にも安心です。

◎詳細は、5月1日に発行される掲示板のポスターをご覧ください。

区内の活動紹介

動物と暮らしやすいまちづくり会

近年、人と動物との関係は多様化し、伴侶として動物と暮らす人々が増えてきました。中央区は下町風情と湾岸エリア等の開発により、多様な文化・人々が交差している地域です。人口増加や高齢化、自然災害への対応など社会的な課題も増えました。そうした私たちの暮らしの変化を踏まえつつ、中央区において「人も



動物も共に暮らしやすいまち」の実現をめざしています。平成28年度からは「災害時におけるペット対応」をテーマに、動物が好きな人/嫌いな人といった垣根を超え、ペット飼育の愛情とけじめを中心に意見交換するイベントを定期開催する予定です。

動物も共に暮らしやすいまち」の実現をめざしています。平成28年度からは「災害時におけるペット対応」をテーマに、動物が好きな人/嫌いな人といった垣根を超え、ペット飼育の愛情とけじめを中心に意見交換するイベントを定期開催する予定です。



協働マガジン 16

協働ステーション中央は、(特活)NPOサポートセンターが中央区からの事業委託により運営しています。

協働ステーション中央

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町5-1 十思スクエア2階

TEL : 03-3666-4761 FAX : 03-3666-4762

E-mail : info@kyodo-station.jp

中央区社会貢献活動情報サイト : <http://chuo.genki365.net/>

開館時間 : 火曜～日曜 10:00～19:00 ※会議室利用のみ 9:00～21:00 (要予約)

休館日 : 月曜、年末年始、施設点検日

交通 駐車場はありませんので、車での来場はご遠慮下さい。
 東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅4番出口徒歩3分。江戸バス北循環「小伝馬町駅」下車徒歩4分



協働マガジン



Kyodo Station Chuo

NPO×中央区＝地域の課題解決!

事業構築シート提出後、各部局との調整へ

区に提案する協働事業に関する相談を受付けています

中央区では、平成22年度からよりきめ細やかな行政サービスを提供するため、NPO法人やボランティア団体などの社会貢献活動団体と力を合わせ、公共的な課題解決をめざす「協働提案事業」を公募しており、協働ステーション中央では、提案事業の構築相談や担当部局との調整などをコーディネートしています。平成29年度に実施する事業の提案期間は平成28年夏頃の予定ですが、事前に「事業構築シート」を提出し、担当部局と実施可能性を調整する必要があるため、早めの相談、提出をお願いしています。



《協働提案事業「地域の担い手養成塾」の様子》

事業構築シートを書く前に

右表では、提案事業をシートに書き落とす前に、いくつか押さえておくよいポイントを掲載しています。提出時点で区のニーズやポイントをおさえておけば、調整がより前向きに進む可能性があります。これらに配慮し事業構築シートをつくるのが大切です。また、担当部局との調整は複数回にわたることもあるため、提出は早ければ早いほどお勧めです。

協働事業の流れ

担当部局との調整を経て、提案書を作成し、提出します。その後、公開プレゼンテーションを開催し、採択の可否を決定します。

「スタートガイド」を配布しています

協働事業提案について詳しく知りたい方は、協働ステーション中央までお問い合わせ下さい。下記サイトからもダウンロードできます。

<http://chuo.genki365.net/contents/hp0006/index00030000.html>



【事業構築シート作成5つのポイント】

□ 解決したい提案分野を明確にする

提案は、区から課題を提起する事業と、提案団体の自由な発想による事業の2種類から選べます。どちらで提案するかを見定めてみましょう。

□ 区が抱える課題を捉え、地域課題を見定める

区が抱える課題は何か、そのためにどのような事業を実施しているのか、事業を実施するうえでの課題は何か、的確に把握することをお勧めしています。基本計画や各部署の事業報告書、行政評価に関する報告書等が参考になります。区内の活動から見える課題なども踏まえるとよいでしょう。

□ 自団体の強みと活かし方を整理する

上記課題を解決する際に、自団体の強みをどう活かすことができるのか明確にしておきましょう。

□ 協働したい担当部署を具体的に見定める

複数の部署にまたがる事業内容の場合は各部署にシートを提出することもできれば、活動推進の実効性が高い部署に絞って提出することもできます。この見極めは大切です。各担当部局の趣旨を踏まえて伝えるように書くことは何よりのポイントです。

□ 課題を解決する事業の概要を整理する

事業名は端的かつ明確に。何をするか具体的に伝える名称をつけましょう。また、目的、対象、日時、内容、定員、参加費の有無、実施により期待される成果を整理してみましょう。協働したい区との役割分担も明確に。

事業構築シートの入手方法

協働ステーション中央へ電話またはメールにてお問合せ下さい。

<http://chuo.genki365.net/contents/hp0006/index00030001.html>



《協働提案事業「子育て支援運動教室」》

日頃しているコーディネートの一部、お見せします。

協働ステーション中央 サポートメニュー活用術

コーディネート編

協働ステーション中央では、ボランティア・市民活動団体、企業、町会・自治会などの「社会貢献活動団体」間をコーディネートしています。今回は、それにより活動が広がるプロセスを、事例をもとにご紹介していきます。皆さまもどうぞお気軽にご相談ください。



親子料理教室 Foozit (代表：吉澤晶子さん)

勝どきを中心に親子料理教室・食育イベントを行うグループ。「子どもが食べやすく、忙しくても作れる」和食ベースの料理がコンセプト。日本の食文化を親子体験できるイベントも多数。「おにぎ隣人祭り」は勝どきで20回ほど開催。

身延別院 (青年会、副住職：藤井教祥さん)

協働ステーション中央の近く、日本橋小伝馬町にある寺院。2007年6月、今の不安な世の中を若い力で変えていきたい、社会貢献をしたい20-30代中心に青年会を発足。子育て支援活動を中心に、キッズカフェなどの親子ふれあいイベントや子ども宿泊合宿などを開催。「お寺で縁結びコン！」等の交流イベントも開催。

STEP-1 2015年3月 入門講座にゲスト出演!

2015年3月、協働ステーション中央で入門講座を開催しました。テーマは、「地域とつながる はじめの一步“コラボ”」でつながった5人のキッカケ。協働ステーション中央をキッカケとして活動の発展を果たした5つの団体の事例として、Foozitにご登壇いただきました。

その際、料理イベントの開催を計画中の青年会の方も参加。「料理ができる人を探している」とのご相談から、Foozitをご紹介します。



STEP-2 2015年4月 交流イベントでコラボが実現!

それがきっかけとなり、青年会主催の「お寺で縁結びコン！」でのコラボが実現しました。長さ10メートルの太巻きを作りながらの交流会では、材料の選定と下ごしらえをFoozitが監修しました。他の料理家の方も参加。新たなつながりも生まれました。その後Foozitの活動である「おにぎ隣人祭り」で子ども向けに食事の前後でのあいさつにまつわるお話をするなど、コラボが生まれています。



STEP-3 2015年2月 見本市でもコラボが実現!

このように、団体間をコーディネートしたり活動の数々を多くの方に知っていただいたりすることは、協働ステーション中央の大きな役割のひとつ。そこで今回、年1回の大きなイベント「見本市」で「おにぎ隣人祭り」を開催しようと検討開始。協働ステーション中央に調理スペースがないため、Foozitが調理スペースを身延別院から当日借り受けることができ開催が実現しました。大人から子どもまで多世代が交流する会となりました。

活動や困りごとの発信は、新たなつながりを生み出し、活動を推進する大きな力となります。協働ステーション中央ではそのような相談に応じていますので、ぜひご利用ください。

協働ステーション中央では、区内企業の多様な地域貢献活動について取材をしています。今回は「車」を活用した社会貢献企業の事例紹介です。

企業取材 第12回

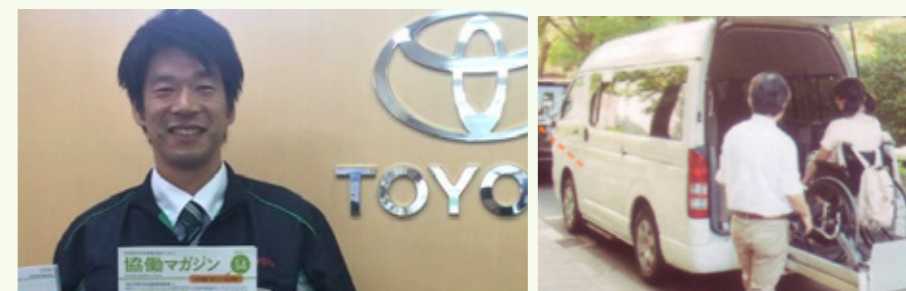
(株)トヨタレンタリース東京八丁堀店(八丁堀)
店長 南良介

■利用者の9割はビジネスマン

八丁堀は企業が多いこともあり、平日の利用者の9割は企業の方々です。利用時間のピークも、始業・終業、お昼休みの前後と象徴的です。一方、休日は近隣タワーマンションにお住まいの方々がレジャー目的で利用されることが多いのが当店の特徴です。1日に延べ100台の車両レンタルに対応しています。

■車両を活かした地域貢献

当社の地域貢献活動としては、身体が不自由な方、65歳以上の方を対象とする支援団体に24時間無料で「ウェルキャブ(福祉車両)」を提供しています。障がいのある方の外出支援、福祉イベント等で展示する際などにご利用



ただいています。また、災害復興支援活動団体への車両レンタルサポートにも力を入れています。

■顔の見える関係づくりを

かつていたお店では、幼稚園の運動会や遠足、病院での送迎、大学生のクラブ活動など、日常生活の様々な局面でご利用いただいていた。車を通じて地域でどのような貢献ができるか現在模索中ですが、店舗や車両を活かした地域貢献活動を近隣の方々との顔の見える関係づくりに活かしていくことが当店にとっても意味のあることだと思っています。

トヨタレンタリース東京
<http://www.toyota-rl.tokyo/>

【協働マガジンの配架にご協力いただきました!】

区内5店舗中4店舗で協働マガジンの配架にご協力をいただいています。「待ち時間に手に取って読んでいますよ」(南さん)。社会貢献活動を知るキッカケになればと思います。



協働ステーション中央 《 イベント報告 》

十思カフェvol.54

メディアでは語られない被災地のこと—現地エピソードから考える地域の防災と減災—

2015年12月9日、十思カフェ vol.54を開催しました。東日本大震災から5年、災害への意識は高まりをみせていますが、現地の報道は以前より減ったように思います。来るべき時にどう備えたら被害を最小限にできるのか。今回は「地域の防災と災害」をテーマに考えました。

前半は、3.11以降学生を現地に派遣する日本財団学生ボランティアセンターの佐藤希美さんのほか現地入りした若者



たちが、被災地の実情や被災者の方々の思いを率直に語りました。後半は、その話をもとに、自身のエピソードや困った事、解決策を話しました。連絡手段がな

い、帰路はどうしたらよいか、地域のネットワークはできているのか等多くの問題点があがり、会社、家庭、地域での防災計画や情報共有の必要性について世代を超えて考える会となりました。

発表した若者たちが参加者主催の復興イベントの一コマを企画する新たな展開も。現地エピソードは、社会福祉協議会「まちひととサイト」でご覧いただけます。

<http://machihito.blog131.fc2.com/blog-entry-1803.html>

